岩手県立杜陵高等学校遠隔授業配信施設整備事業設計・施工者選定プロポーザル

プロポーザルに関するＱ＆Ａ

Ｑ１　今回、この選定方式を採用する理由は何か。

Ａ２　本事業は、国の予算を財源としており、その条件により令和 10 年度末までに完了する必要があります。資材価格の高騰や調達の不安定化が懸念される中、この期限までの確実な事業執行を図るため、設計者と施工者等を一括で選定する方式を採用するものです。これにより、施工者のノウハウを設計段階から反映させるなど、両者の緊密な連携のもとで円滑かつ効率的な工程・コスト管理を実現し、早期の事業完了と効果の発現を目指します。

Ｑ２　コンソーシアムの組合せの例を示せ。

Ａ２　設計者、工事監理者、施工者（建築）、施工者（電気設備）及び施工者（機械設備）の５者による組合せを基本として、さらに以下の例が考えられます。なお、全ての業務を同一の者が兼ねることはできません。

【基本パターン】　（凡例　○：代表者）

○施工【建】※JV可 ＋ 施工【電】 ＋ 施工【機】 ＋ 設計※JV可 ＋ 監理※JV可

例①：設計と工事監理を同一の者が兼ねる。（計４者）

○施工【建】 ＋ 施工【電】 ＋ 施工【機】 ＋ 設計・監理

例②：３工種（建築、電気、機械）の施工を同一の者が兼ねる。（計３者）

○施工【建・電・機】 ＋ 設計 ＋ 監理

例③：３工種（建築、電気、機械）の施工に加え、設計も同一の者が兼ねる。（計２者）

○施工【建・電・機】・設計 ＋ 監理

※　上記は、全ての例を示しているものではありません。

Ｑ３　プロポーザルの公告時点から建設工事の契約時点まで１年以上の期間が見込まれているが、その間における資材価格や労務費等の上昇分は工事の契約金額に反映されるのか。

Ａ３　建設工事の契約の基礎となる設計価格（予定価格）は、設計業務における積算の段階で、可能な限り工事契約時点に近い最新の単価を適用して算出するため、その間の物価変動分については、工事の契約金額に反映されることとなります。

なお、工事契約後における物価変動への対応については、県営建設工事の規定及び運用によるものとします。

Q４　設計段階において、急激な物価変動等の影響により、工事の設計価格（予定価格）が予算上限額の範囲内に収まらない見込みとなった場合、どのような対応となるのか。

Ａ４　設計価格については、予算上限額の範囲内に収めることを基本としますが、急激な価格高騰等の影響により対応が困難と見込まれる場合は、速やかに発注者と協議するものとします。

　なお、この場合においても、追加の予算措置は原則として行わないため、予算上限額の範囲内で、施設規模の縮小を含む設計内容の見直し等により対応することとなります。

Q５　業務工程計画表の工期は、どのように評価されるのか。また、資材調達の困難等により当初想定した工程が遅延する場合の対応はどのようになるのか。

Ａ５　業務工程計画表に記載する工期の長短は、審査における直接的な評価の対象とはしませんが、工程計画の妥当性や工程効率化に関する取組については、定性評価項目「工程管理」の評価において参考とします。

　なお、受注者の責によらない事由により、工程の遅延が避けられない場合には、速やかに発注者と協議するものとします。

Q６　既存施設の解体工事を含む事業全体の整備スケジュールは、どのように想定しているのか。

Ａ６　解体工事及び新築工事に係る設計・施工の時期については、受注者からの提案を踏まえ、発注者と受注者との協議により決定します。

　なお、発注者としては、現時点において、概ね次のスケジュールを想定しています。（新築工事の工期は、最長期間を想定しています。）

○設計業務：R9.1 中旬～R9.11.10

（※解体工事と新築工事の設計業務は一括して契約し、それぞれの成果物の提出期限を以下のとおり指定する。（建築設計業務特記仕様書参照）
・解体工事：R9.5.10
・新築工事：R9.8.31）

○解体工事：R9.7～R9.11（工事監理業務（解体）も同様）

○新築工事：R9.12～R11.3（工事監理業務（新築）も同様）

（※解体工事と新築工事は、それぞれ別契約とする。また、工事監理業務についても、それぞれの工事に対応して別契約とする。）

Ｑ７　解体工事と新築工事において、異なる技術者を配置することは可能か。

Ａ７　解体工事と新築工事を別契約とする場合は、それぞれ異なる技術者を配置することができます。

　なお、異なる技術者の配置を希望する場合は、プロポーザル参加時に、解体工事及び新築工事それぞれに配置する予定技術者を指定してください。（評価に当たっては、指定された技術者のうち最も低い評価点の者を評価対象とします。）

Ｑ８　解体する既存施設の図面はあるか。また、建築時期はいつ頃か。

~~Ａ８　現在、保存が確認できている図面は、平面図及び立面図のみです。参考として５～７ページに掲載します。~~

~~また、当該施設の建築時期は、昭和 49 年です。~~

【11/16更新】

Ａ８　現在、保存が確認できている図面は、次のとおりです。受注者には、必要に応じて提供（貸与）することが可能です。

・建築工事図面：配置図、平面図、立面図（作成段階は不明。平面図及び立面図は、参考として５～７ページに掲載）

・管設備工事図面：一式（竣工図）

また、当該施設の建築時期は、昭和 49 年です。

Ｑ９　解体する既存施設の基礎の形式はどのようになっているか。また、その解体範囲はどこまでか。

Ａ９　既存施設の基礎形式及び杭の有無については、構造図等の資料がないため不明です。

　解体範囲については、解体の対象となる給食棟（渡り廊下を含む。）の地上部、基礎及び既設杭を含めて撤去するものとして見込んでください。なお、詳細な基礎形状、寸法及び埋設深さ並びに既設杭の仕様（杭種、本数、径、長さ等）については不明であるため、受注後の調査により想定と異なる場合は、契約書等の定めに基づき協議のするものとします。

Ｑ10　敷地の地盤の状況が分かる資料はあるか。

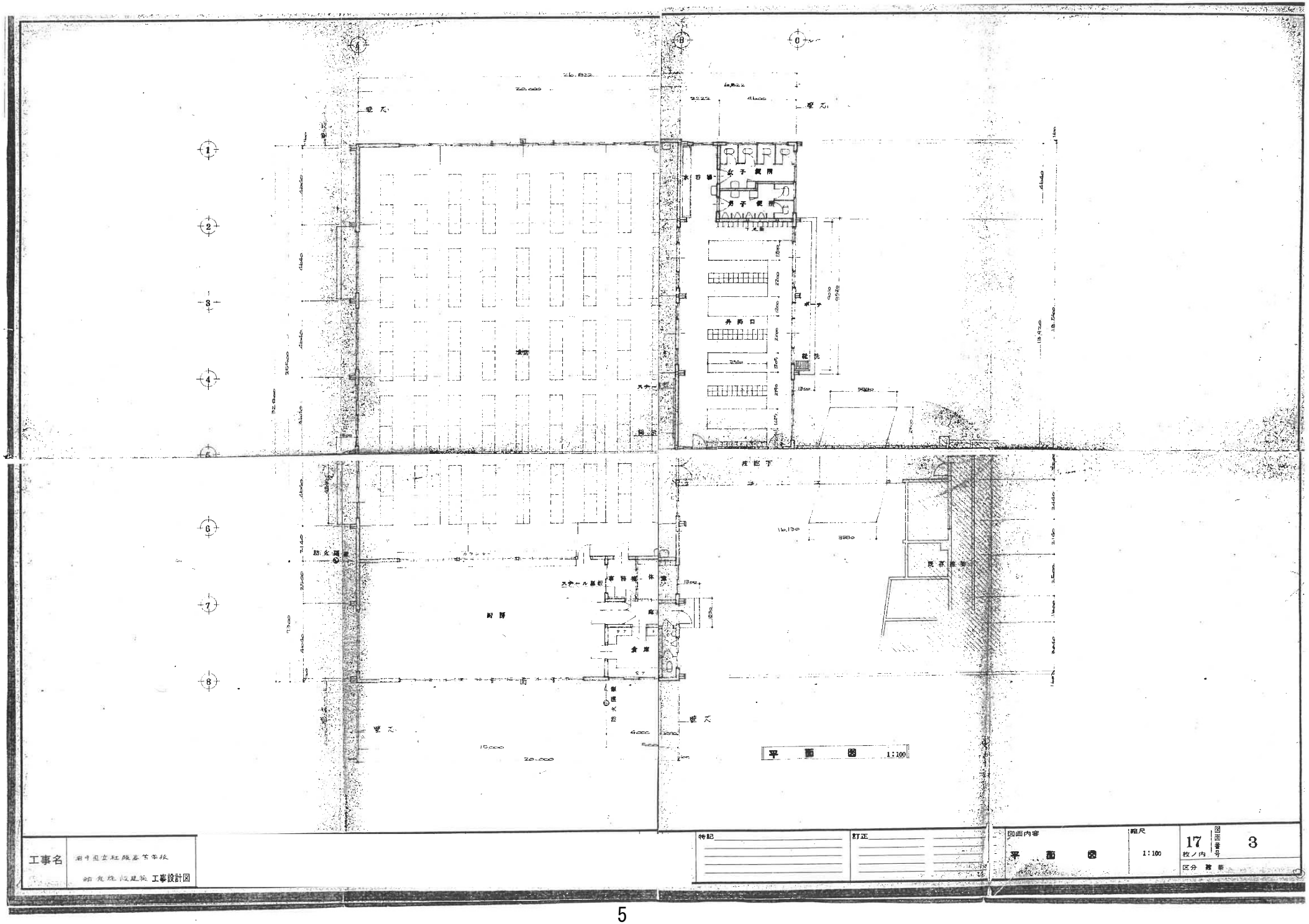
Ａ10　隣接するヘリポート棟を整備した際に実施した地質調査資料を、参考として８ページに掲載します。

Q11　現在、実施中の岩手県立黒沢尻工業高等学校半導体実習施設設計・施工者選定プロポーザルとの併願による参加は可能か。

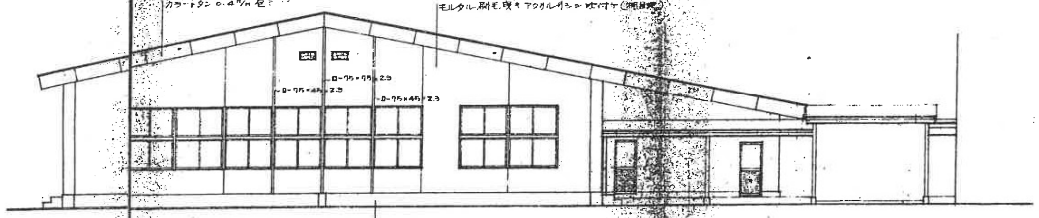
A11　併願による参加は可能です。

なお、施工者の配置予定技術者が両事業で重複する場合、両事業において最優秀者として特定された場合であっても、受注できるのはいずれか１件のみとなります。（※）

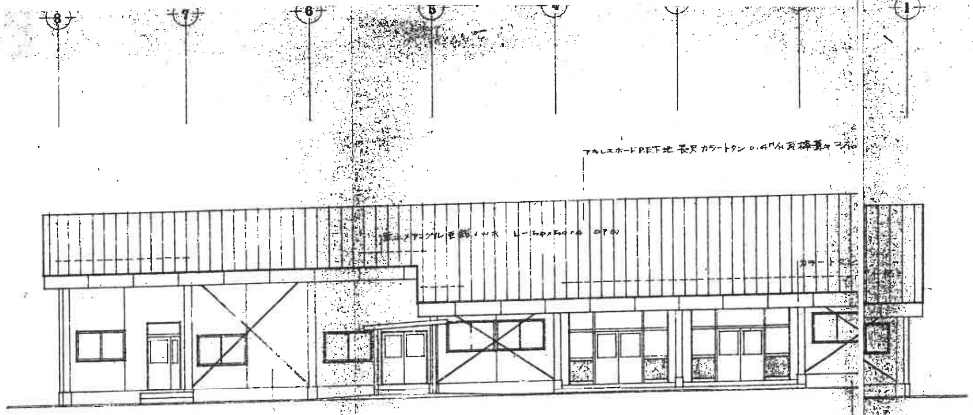
※　複数の配置予定技術者を指定しており、両事業にそれぞれ必要な技術者を確保できる場合は、この限りでありません。不明な点がある場合は、質問書により具体例を示してお問い合わせください。



工事名	町立小学校 給食施設建築 工事設計図
特記	
訂正	
図面内容	平面図
縮尺	1:100
枚ノ内	17
図面番号	3
区分	建築

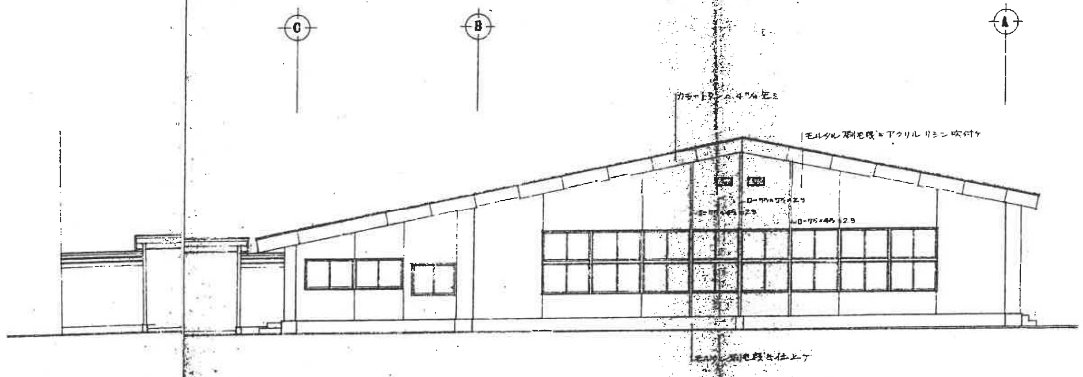


西　側　立　面　図　1:100

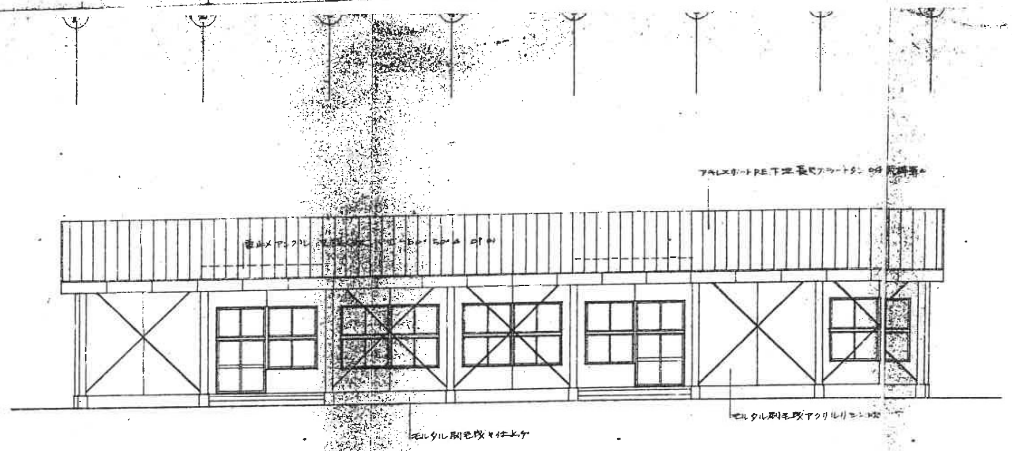


東　側　立　面　図　1:100

工事名	岩手県立杜陵高等学校 新体育施設建築 工事設計図	特記	訂正	図面内容 W S 立 面	縮尺 1:100
				17 枚ノ内	図面番号 4
				区分	建築

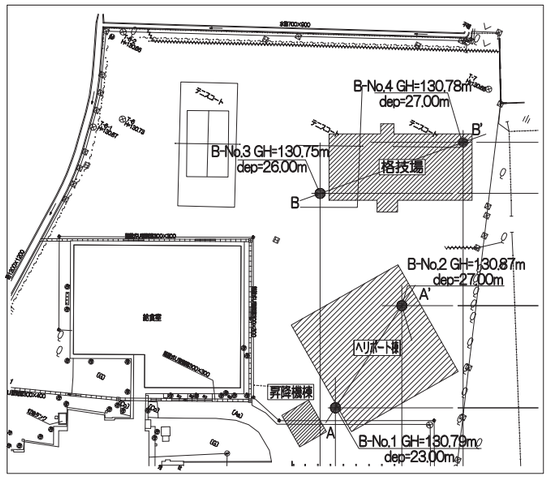


東　側　立　面　図　1:100



北　側　立　面　図　1:100

工事名	岩手県立杜陵高等学校 給食施設建築 工事設計図	特記	訂正	図面内容 N E 立面	縮尺 1:100	17枚ノ内	図面番号 5 区分 建築



調査位置平面図 (1/1000)

ボーリング柱状図

ヘリポート棟・昇降機棟
▽設計GL=130.9m

調査名　盛岡地区ドクターヘリ ヘリポート 整備工事設計業務　　ボーリング No

事業・工事名

ボーリング名	B-No.1	調査位置	盛岡市上田二丁目3番1号			北緯	
発注機関				調査期間	平成 28年 9月 14日 ～ 28年 9月 17日	東経	
調査業者名	（株）伊藤喜三郎建築研究所 電話（022-222-3098）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	佐々木 亮
孔口標高	130.79m	角度	180°上 90° 0°下	方向	270°西 北 0° 90°東 180°南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	23.00m	使用機種	試錐機	東邦地下工機D-1型	ハンマー落下用具	半自動	
			エンジン	ヤンマーNFD型	ポンプ	BG-3B	

シート No

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	深度 (m)	標準貫入試験 打撃回数 0～10	10～20	20～30	貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1	129.69	1.10	1.10		盛土（礫混り砂）	灰褐			φ10mm前後の礫や シルト を含む中～粗粒砂。	9/13 1.40	1.15	1	2	2	5/30	5							
2	129.19	0.50	1.60		有機物混りシルト	暗褐			有機物や細粒砂を含む。含水多く 軟らかい。		1.45												
3	128.09	1.10	2.70		シルト混り砂	灰			シルト 分を含む細～中粒砂。 GL-2.15～2.3m 細粒砂主体。		2.15	1	1	1	5/15	2							
4	127.69	0.40	3.10		シルト	灰			ほぼ均質な粘土質シルト 。		2.45												
5	126.69	1.00	4.10		シルト混り砂	暗灰			シルト 分を含む細～中粒砂。		3.15	3	3	2	8/30	8							
6	125.29	1.40	5.50		シルト	暗灰			ほぼ均質。わずかに細粒砂を含む。		3.45												
7	123.89	1.40	6.90		砂	暗灰			中粒砂を主体とし、φ10mm前後の礫を少量含む。		4.15	3	3	3	9/30	9							
8	121.89	2.00	8.90		礫混り砂	暗灰～灰			φ10～20mm前後の円礫と 細～中粒砂を主体。		4.45												
9											5.15	1	1	3	5/30	5							
10											5.45												
11											6.15	3	3	3	9/30	9							
12											6.45												
13											7.15	10	9	9	28/30	28							
14											7.45												
15	115.99	5.90	14.80		礫混り砂質シルト	灰褐～黒			φ10～20mm前後の礫や砂分を 不規則に混入する。 GL-10.9～11.0m 緑灰色固結砂。 GL-11.7～12.0m 有機物混り シルト。 GL-13.6～13.8m 礫、砂が多い。 GL-13.8～14.5m 炭質固結シルト 。		8.15	7	3	3	13/30	13							
16											8.45												
17											9.15	2	1	2	5/30	5							
18											9.45												
19											10.15	2	2	2	6/30	6							
20											10.45												
21											11.15	3	3	3	9/30	9							
22											11.45												
23											12.15	2	3	4	9/30	9							
											12.45												
											13.15	3	3	6	12/30	12							
											13.45												
											14.15	4	4	5	13/30	13							
											14.45												
15	114.09	1.90	16.70		シルト質砂	暗褐			細粒砂とシルト の互層状。 GL-14.8～16.0m シルト ～微細砂の混入多い。 GL-16.5m φ10mm前後の円礫混入。		15.15	4	5	7	16/30	16							
											15.45												
											16.15	3	4	4	11/30	11							
17	113.49	0.60	17.30		シルト混り砂	黄褐～暗灰			凝灰質のシルト を含む細粒砂。固結して 硬い。		16.45												
											17.15	5	8	10	23/30	23							
											17.45												
18											18.15	13	15	22/8	50/28	54							
											18.43												
19											19.15	15	16	19/7	50/27	56							
											19.42												
20											20.15	17	20	13/5	50/25	60							
											20.40												
21											21.15	15	16	19/4	50/24	63							
											21.39												
22											22.10	20	30/4		50/14	107							
											22.24												
23	107.79	5.70	23.00		マサ	緑灰～暗灰			原岩組織明瞭。 逸水帰り で採取されるも、乱すとシルト 混り 粗砂～礫混り 粗砂状。 全体に緑灰色を帯びる。 深度方向に粒子が粗くなる。 GL-22m以深、粒子硬くなる。		23.05	21	29/4		50/14	107							
											23.19												

▽杭頭位置 1,500
▽杭先端位置 GL-19.0m 17,500

ボーリング柱状図

調査名　盛岡地区ドクターヘリ ヘリポート 整備工事設計業務　　ボーリング No

事業・工事名

ボーリング名	B-No.2	調査位置	盛岡市上田二丁目3番1号			北緯	
発注機関				調査期間	平成 28年 9月 13日 ～ 28年 9月 17日	東経	
調査業者名	（株）伊藤喜三郎建築研究所 電話（022-222-3098）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	岩崎 久彦
孔口標高	130.87m	角度	180°上 90° 0°下	方向	270°西 北 0° 90°東 180°南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	27.00m	使用機種	試錐機	東邦地下工機D-1型	ハンマー落下用具	半自動	
			エンジン	ヤンマーNFD型	ポンプ	BG-3B	

シート No

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	深度 (m)	標準貫入試験 打撃回数 0～10	10～20	20～30	貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1	129.77	1.10	1.10		盛土（礫混り砂）	灰～暗褐			φ10mm前後の礫や中粒砂を主体。	9/14 1.20	1.15	1	1	2	4/30	4							
2	129.37	0.40	1.50		シルト	暗褐			有機物を含む。含水多く 軟らかい。		1.45												
3	128.07	1.30	2.80		シルト質砂	暗灰～暗褐			シルト 分を多く含む細～中粒砂。 GL-1.9～2.5m 細粒砂主体。 GL-2.5～2.6m 有機質シルトを挟む。		2.15	1	1	1	3/15	3							
4	127.42	0.65	3.45		シルト	暗灰			ほぼ均質な粘土質シルト 。含水多く べとつく。		2.45												
5	127.17	0.25	3.70		シルト質砂	暗灰			シルト 分を多く含む細粒砂。		3.15	1	1	2	4/30	4							
6	124.27	2.90	6.60		シルト	灰／暗灰			均質な粘土質シルト 。含水多く 軟らかい。 GL-3.7～4.0m、GL-5.8～6.6m 細粒砂を含む。		3.45												
7											4.15	1	2	2	5/30	5							
8	122.37	1.90	8.50		砂礫	灰			φ10～20mm前後の円礫と 細～中粒砂を主体。 GL-8.5m 最大コア 長5cmの安山 岩礫見られる。		4.45												
9											5.15	1	1	1	3/30	3							
10											5.45												
11											6.15	1	1	1	3/30	3							
12											6.45												
13											7.15	10	11	9	30/30	30							
14											7.45												
15											8.15	8	10	15	33/30	33							
16											8.45												
17											9.15	1	2	2	5/30	5							
18											9.45												
19											10.15	1	2	2	5/30	5							
20											10.45												
21											11.15	2	4	3	9/30	9							
22											11.45												
23											12.15	3	2	2	7/30	7							
											12.45												
											13.15	3	4	4	11/30	11							
											13.45												
											14.15	2	2	2	6/30	6							
											14.45												
15	117.27	5.10	13.60		礫混り砂質シルト	灰			φ10～30mm前後の礫や砂分を 不規則に混入する。 所々、砂質シルト 状を呈する。 GL-8.5～8.6m 緑灰色の固結砂混入。		15.15	1	2	4	7/30	7							
											15.45												
											16.15	3	2	2	7/30	7							
16	116.17	1.10	14.70		砂質シルト	灰			均質な細粒砂を 多く 含む。		16.45												
											17.15	2	1	1	4/30	4							
17	115.27	0.90	15.60		シルト質砂	灰			シルト 分を多く 含む細粒砂。有機物を含む。		17.45												
											18.15	10	13	15	38/30	38							
18	113.97	1.30	16.90		礫混り砂	灰			φ10～20mm前後の円礫と シルト 分を含む細～中粒砂。 GL-16.0～16.5m 礫分少なく 緩い。 GL-16.5～16.9m 砂礫。		18.43												
											19.15	8	11	15	34/30	34							
19	113.07	0.90	17.80		シルト	暗褐～緑灰			ほぼ均質な粘土質。 GL-17.6～17.8m 緑灰色細粒砂を 含む。		19.45												
											20.15	12	13	9	34/30	34							
20	112.27	0.80	18.60		シルト混り砂	灰			凝灰質のシルト を含む細粒砂。固結状を 呈する。		20.45												
											21.15	16	17	17/6	50/26	58							
21	109.27	3.00	21.60		シルト混り砂礫	暗～灰			φ10～30mm前後の円礫と シルト 分を含む細～中粒砂を主体。 礫は、粘板岩、砂岩等。 GL-18.6～19.7m 粘土分を多く 含む。 GL-19.7～19.9m 灰～緑灰色シルトを 混入する。 GL-20.8～21.6m マトリックスに 雲母片多く 含む。		21.41												
											22.15	12	20	18/6	50/26	58							
											22.41												
											23.15	29	21/2		50/12	125							
											23.27												
											24.15	20	30/8		50/18	83							
											24.33												
											25.15	12	18	20/2	50/22	68							
											25.37												
											26.15	50/8			50/8	188							
											26.23												
27	103.87	5.40	27.00		マサ	暗灰			原岩組織明瞭。 コア は逸水帰り で採取されるも、乱すとシルト 混り 粗砂～礫混り 粗砂状。 深度方向に硬くなる。 GL-26m以深、粒子硬く なる。		27.00	50/9			50/9	167							
											27.09												

▽杭頭位置 1,500
▽杭先端位置 GL-19.0m 17,500